

校内の桜も開き始めた今日この春の佳き日に、さいたま市立大宮西高等学校第五十六回にして、最後の卒業証書授与式を挙げていただけますことは、この上なく大きな喜びです。本校にとって最後の卒業生となる二九名の皆さん、卒業おめでとうございます。私自身、入学式以来、皆さんとともに三年間を過ごすことができ、今日こうして卒業の日に臨めることを心から嬉しく思います。

当初予定していた三月七日に挙げてすることができなかったものの、こうして日を改めて挙げてできるようになったのも、喜びを一層大きくしてくれた気がします。例年と異なり、来賓も保護者も出席しない形であり、時間も縮小せざるを得ない式とはなりますが、仮に挙げてできなかったことを思えば、こうして皆さん一人一人の名前を呼び、顔を見て卒業を祝うことができたのは、本当に「ありがたい」ことだと実感しています。

皆さん、「ありがたい」の対義語、反対語を知っていますか？ 意外と知られていないそれは、「あたりまえ」とか「ありふれている」という言葉です。「有り難い」は、そもそも「存在することが困難だ」という意味であり、言い換えると「滅多にない」ということです。私たちは普段の生活をつい「当たり前」だと思っていないですか？ 食事が取れるのは当たり前、健康でいられるのも当たり前、友達と仲良くできるのも当たり前、などなど。

しかし、現在のような困難な状況に置かれると、実はそういったことが必ずしも「当たり前」とは言えないのだと気づかされます。食事が取れて「有り難い」、健康でいられて「有り難い」、友達と仲良くできて「有り難い」。普段は「当たり前」だと思っていたことが、実は「有り難い」ことだったのだと分かります。だから、今日こうして皆さんと会えたことは、とても「有り難い」ことだと感じています。

さて、皆さんは、本校が中等教育学校へ改編されるということ、そして自分たちが西高のアンカーだということを承知で本校に入学してくれました。そのため、皆さんには後輩となる西高生は入学して来ませんでした。学年が上がるたびに、生徒が大きく減っていき、先生方も減っていきました。一年生の夏からの中等校舎の建設工事によって、不自由な環境での生活を余儀なくされても来ました。そうしたあらかじめ覚悟していたことに加え、昨年九月には、皆さんのことを心から愛してやまなかった西幅先生を亡くしました。

しかし、そうした度重なる大きな逆境の中でも、文化祭や体育祭、修学旅行や球技大会など、いくつもの学校行事に皆さんは全力で取り組み、それらをとことん楽しみながら、己を磨き、仲間意識を育み、自らの進路目標に前向きに努力してきました。それは決して「当たり前」のことではなく、「有り難い」ことだったのだと、校長を五年やっている間に徐々に私も分かるようになりました。それこそが、西高が誇る西高生らしさなのだ。その点で、皆さんは最後まで西高らしさを体現してくれました。

今、全世界規模での新型コロナウイルス感染拡大という極めて深刻な逆境に在っても、今日、ここでこうして卒業式を迎えることができたのも、いかにも西高らしいという気さえして来ます。皆さん、この困難にも打ち負かされることなく、乗り越えていきましょう。

そんな皆さんに忘れないでほしいことを、入学から今日まで、私は繰り返しお話ししてきました。それは「自分たちの未来をあきらめない、人任せにしない」ということで

す。自分自身の進路や将来や人生のことはもちろんですが、それだけではありません。

「世界を、この世の中を、今よりもっと良くするために、これから自分に何ができるか、何をしたらよいか」ということを、何度も皆さんに考えてもらいました。

「自分の考えや行動が世界を変えていくなんてあり得ないし、大袈裟じゃないか」と思う人もいるでしょう。「自分のことだけで精一杯で、世界を良くするなんて考えられない」と言う人もいるでしょう。しかし、それで良いのでしょうか。なぜなら、皆さんが日々どういう心持ちで生活するかによって、皆さん自身の未来は違う道を辿るでしょうし、それによって世界のあり様も異なるものになっていくからです。

確かに「たいしたことはできない」かも知れません。しかし、これまでに何度もお話ししてきたように、「たいしたことはできない」と「何もできない」は違います。「世界中の人々」とか「困っている全ての人」に対してはできなくても、自分の目の前にいる人、自分の身近にいる人にだったら、何かできるかも知れない。自分にできるその「何か」が、すぐに世界平和に結びつかなくても、人を優しい気持ちにさせるとか、思いやりの輪が広がるとか、ほんの少しずつでも、世界をより良い方向に向かわせることができるのです。

自分一人の考えなんて所詮ちっぽけなもので、世界を変えることなんてできやしないと、あきらめてはいけません。自分が何もしなくたって、やる気のある誰かが上手くやってくれるだろうと、人任せにしてはいけません。自分の、自分たちの、自分たちに続く者たちの未来をあきらめないこと、人任せにしないこと。そして、そのために自分には何ができるのか、何をすべきなのか、これからの生涯、常に自分自身で考えて、意識して行動してください。あなた方一人一人の意識と行動が、自分の未来を作っていくのだ、そして世界の行く末に繋がっているのだということを、どうか忘れないでください。

これから先の人生の中でも、皆さんは大きく様々な困難に直面することでしょう。その時に周りから「どうしてあなたは、いつもそんなに前向きに考えたり行動できたりするのか？」と訊かれたら、胸を張って答えましょう。「だって大宮西高校の卒業生ですから。」

大宮西高校は、あなた方の卒業をもって閉じることになります。今月末には校名も消えますし、校舎も無くなります。バス停の名前も変わりますし、いずれ日本地図からも消えます。確かに大宮西高校は物理的には無くなってしまふけれど、大事なことは、大宮西高校は皆さん自身の中に在り続けるということ。今ここにいる一人一人の心の中で、大宮西高校はいつまでも母校であり続けるということ。だから We are Omiya West!

西高の最後の卒業生が、あなた方で良かった。あなた方全員を、西高の最後の卒業生として、今日こうして送り出せることを、私たち教職員は誇りに思います。これからもずっとあなた方の前向きな活動に、あなた方が作る「よりよい世界の未来」に期待し続けると申し上げて、さいたま市立大宮西高等学校卒業証書授与式、最後の式辞といたします。

令和二年三月十六日

さいたま市立大宮西高等学校長 関田 晃